

令和3年度（R3.4月～R4.3月）学校評価

◇ 評価点は、Ⅰ～Ⅸのカテゴリーごとと各項目を、〔3：あてはまる 2：ややあてはまる 1：あてはまらない〕と採点し、その平均点として表したものである。各カテゴリーの点検内容については別紙公開の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参照。

カテゴリー・項目数	自己評価	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的 (11項目)	評価点〔3.00〕 第5次改正カリキュラムの改正意図を踏まえ、検討したものを明示している。卒業時点で求める姿を見直し、ディプロマポリシーを修正した。今後新カリキュラムの実施内容と教育理念・教育目的との整合性の評価を実施する。	評価点〔3.00〕 自己評価の内容を承認
Ⅱ 教育目標 (7項目)	評価点〔3.00〕 ディプロマポリシーを教育目標に置き換え明示している。3年間で段階的に目標をもって学習できるよう、学年別到達目標も設定している。R3年度はディプロマポリシーと学年別到達目標の繋がりが明確に示した表を完成させた。学生が卒業時の到達目標を意識しながら学習できるように支援していく。	評価点〔3.00〕 自己評価の内容を承認
Ⅲ 教育課程経営 (31項目)	評価点〔2.96〕 ナインテール看護論を教育の基盤に起き、講義・演習科目を教授し、臨地実習に活用できるよう構成し教授活動を行っている。教員の授業準備時間の確保は十分とは言えない。組織的な業務改善に取り組む必要がある。 臨地実習において、コロナ関連で学生の安心を保證する配慮の不足があった。現場の情報収集を素早く丁寧に行い、対応する。正しい情報の共有を図ることで、信頼感を損ねないように対処する。	評価点〔3.00〕 コロナの感染拡大は現場の看護師でも不安がある。学生にも不安な気持ちを表出させることが大事。保護者としても感染や実習が中断された時の不安があった。不確実な情報の拡散により不安が広がらないよう、配慮してほしい。 インシデントが発生した場合、そのことでミスが怖がり傷つき体験で終わることなく、ミスから学ぶことができるよう気持ちを救ってほしい。
Ⅳ 教授・学習・評価過程 (17項目)	評価点〔3.00〕 教育理念から単元の指導目標まで一貫性のあるものを設定している。教員によるカリキュラム評価と学生からの評価を踏まえ日々改善に取り組んでいる。改正カリキュラムで強化が必要とされる多職種連携教育も継続して実施した。R4年度からの新設科目は模擬授業を行い、検討と改善に取り組んだ。技術教育について、シミュレーション教育の充実が今後の課題である。	評価点〔3.00〕 自己評価の内容を承認
Ⅴ 経営・管理過程 (36項目)	評価点〔2.86〕 卒業生の多くは市内の公的病院に就職しており、地域医療に貢献する看護師養成という、設置目的は果たしている。静岡市看護師養成の将来構想について、清水校との話し合いは中断している。社会のニーズに合わせた看護師養成になるよう、本校が置かれている現状について、養成所設置者―管理者―教職員の認識を一致させ、目指す方向が明確となるよう設置者と連携していく必要がある。 施設設備の整備において、学生の要望を確認しながら改善に努めた。施設の経年劣化に対する修繕計画の確実な実施、保守管理は継続して取り組んでいく。また、臨床との乖離を避けながら実践力を育てるための教材備品の整備に取り組む。	評価点〔2.91〕 校内の設備が色々整備されていることは聞いている。これからも計画的に実施してほしい。 看護基礎教育のあり方に関する議論を実施しているのは静岡・清水だけと認識している。コロナ対応と新カリの準備で中断しているため評価を2にしたが、その議論をしていること自体に価値がある。4年制化の問題は非常に難しい。議論を進めることが大切である。取り組んでいるという点で評価は3でよい。
Ⅵ 入学 (2項目)	評価点〔3.00〕 アドミッションポリシーを見直し、入学希望者に明示している。18歳人口の減少、看護系大学の増加、高校生の大学志向など、入学希望者の確保は危機感を持って取り組んでいる。入学者状況、入学者の推移を分析し、入学者選抜方法の妥当性について検討、修正を加えた。R4年度は定員数確保できた。	評価点〔3.00〕 自己評価の内容を承認
Ⅶ 卒業・就業・進学 (8項目)	評価点〔2.75〕 看護師国家試験の合格率は13年連続100%であり、卒業時の教育水準は維持できている。卒業生の多くが就職する主たる実習病院と、定期的に情報交換する機会を持ち、卒業生の動向について把握している。新たな取り組みで、R3年3月の卒業生を対象に、卒業1年時点のアンケート調査をR4年3月にWebで実施した。その他卒業生の座談会を2回実施した。卒業生の意見の分析と活用の検討を行う。	評価点〔2.75〕 自己評価の内容を承認
Ⅷ 地域社会／国際交流 (10項目)	評価点〔2.70〕 感染対策を講じ、看学祭や学校説明会を開催した。授業の一環で、駿河共生地区の資源を知るフィールドワークを取り入れるなど、地域とつながる活動を再開しつつある。 国際看護については公衆衛生学に国際保健の内容を追加し、学習内容の充実を図った。学習内容の精選を継続して行う。	評価点〔2.70〕 自己評価の内容を承認
Ⅸ 研究 (3項目)	評価点〔2.66〕 他県の看護専門学校や看護系大学の研究者とWebで交流を図る機会が増えている。この交流を継続し、研究姿勢を高めるように努めていく。	評価点〔2.66〕 自己評価の内容を承認

◇ 学校関係者評価会議 令和4年4月20日 本校会議室で開催

委員長 櫻井 郁子 (公益社団法人静岡県看護協会常務理事)
副委員長 池谷 綾子 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院副看護部長)
委員 間淵 元子 (医療法人社団宝徳会小鹿病院看護副部長)
委員 鈴木 志育 (静岡市立静岡看護専門学校後援会会長)

事務局 瀧 泉 (副校長)
殿岡 和明 (事務長)
赤堀美智子 (教務長)
松永 貴子 (技監)